

創世記17章「契約のしるし—割礼」

17:1 アブラムが九十九歳になったとき【主】はアブラムに現れ、こう仰せられた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。17:2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたをおびたしくふやそう。」17:3 アブラムは、ひれ伏した。神は彼に告げて仰せられた。17:4 「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。17:5 あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである。17:6 わたしは、あなたの子孫をおびたしくふやし、あなたを幾つかの国民とする。あなたから、王たちが出て来よう。17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。17:8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。17:12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に、割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、外国人から金で買い取られたあなたの子孫ではない者も。17:13 あなたの家で生まれたしもべも、あなたが金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉の上にしるされなければならない。17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切れなければならない。わたしの契約を破ったのである。」17:15 また、神はアブラハムに仰せられた。「あなたの妻サライのことが、その名をサライと呼んではならない。その名はサラとなるからだ。17:16 わたしは彼女を祝福しよう。確かに、彼女によって、あなたにひとりの男の子を与えよう。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、国々の民の王たちが、彼女から出て来る。」17:17 アブラハムはひれ伏し、そして笑ったが、心の中で言った。「百歳の者に子どもが生まれようか。サラにしても、九十歳の女が子を産むことができようか。」17:18 そして、アブラハムは神に申し上げた。「どうかイシュマエルが、あなたの御前で生きながらえますように。」17:19 すると神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼とわたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。17:20 イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。確かに、わたしは彼を祝福し、彼の子孫をふやし、非常に多く増し加えよう。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民としよう。17:21 しかしわたしは、来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てる。」17:22 神はアブラハムと語り終えられると、彼から離れて上られた。17:23 そこでアブラハムは、その子イシュマエルと家で生まれたしもべ、また金で買い取った者、アブラハムの家の人々のうちのすべての男子を集め、神が彼にお告げになったとおりに、その日のうちに、彼らの包皮の肉を切り捨てた。17:24 アブラハムが包皮の肉を切り捨てられたときは、九十九歳であった。17:25 その子イシュマエルが包皮の肉を切り捨てられたときは、十三歳であった。17:26 アブラハムとその子イシュマエルは、その日のうちに割礼を受けた。17:27 彼の家の男たち、すなわち、家で生まれた奴隷、外国人から金で買い取った者もみな、彼といっしょに割礼を受けた。

導入

先週は、創世記16章を学びました。今週は17章に進みたいと思います。ここでまずわかるのは、16章と17章には13年間の隔りがあることです。

創世記16：16は、ハガルがイシュマエルを産んだとき、アブラムが86歳だったと語ります。17：1には、アブラムが99歳になったときとありますから、13年経ったことがわかります。

旧約聖書を読むと、神は急いでおられないことが分かります。神は常にご自身の時にお働きになります。その中で、神はご自身の子どもたちに大切なことをお教えになります。

神のアブラムとの契約に関する教えが創世記に登場するのはこれで二度目です。

初めに登場したのは15章でした。神は、アブラムの子孫が偉大な民となると約束なさいました。空の星のようにたくさんになるとおっしゃいました。

アブラムは神を信じたので、彼の霊の口座に義を受け取りました。動物をふたつに割き、当時の人間同士の契約の儀式が準備されました。しかし、神はアブラムには割かれた動物の間を歩かせられませんでしたが、アブラムは眠らされたので、神だけが、煙の立つかまどと燃えているたいまつのかたちで、割かれた動物の間を歩かれました。神がこうなされたのは、契約を成就する責任が神にあることを示すためです。アブラムは神を信じなければなりませんでした。契約の成就のためにアブラムが何かをすることは求められていませんでした。

では17章に進みます。ここでは、神が契約を確認なさいます。そして、アブラムと男子の家族やしもべに、神との契約を結んだことを覚えるしるしとしてある行為をするよう、求められます。

17章は4つの部分にわけて学んでいきましょう。

1. 神が契約を確認され、アブラムの名を変えられる。(1-9節)

最初に、神は自己紹介をなさいます。神はご自身を「エルシャダイ」と呼ばれました。これは、ヘブル語で「全能」という意味です。ヘブル語の聖書では48回だけ登場する単語です。そのうちの31回はヨブ記にあります。このヘブル語の単語は、子孫繁栄や土地、豊穡を約束する個所で使われます。神がアブラムに約束なされたことを成就する力があることを示しています。

神はまず、「わたしの前を歩み、全き者であれ。」とアブラムにおっしゃいます。アブラムとの関係性について意志表示をなさっています。つまり、アブラムが常に神と正しい関係を保つことを望んでおられるのです。

ここで示される神との関係とは、動物のいけにえに基づくものです。動物の血が流されることで、アブラムの罪が覆われます。アブラムが自身の罪のために死ぬのではなく、動物が身代わりに死にます。

レビ 17:11 なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。

神は、アブラムとの間に契約を立てると宣言なさいました。

15章で、アブラムは眠らされ、神は割かれた動物の間を歩かれました。この出来事についてアブラムが疑問を抱いていたとしても、今回は確信を得たでしょう。というのも、神が直接彼に語りかけ、アブラムと契約を立てると保証なされたからです。

当時、ふたりの人の間で交わされる契約というのは非常に真剣なもので、双方が同意事項を守らなければなりませんでした。しかし、神が人と契約を立てるなどという前例はありませんでした。

天地を創造なさった全能の神がアブラムに語りかけ、契約を立てると約束なさったのです。アブラムはどう反応したでしょう。彼は地面にひれ伏しました。これこそ、神と出会った人のあるべき姿です。

神は、アブラムに語りかけ、大切なことをおっしゃいました。

1. 神は、この契約が神とアブラムとの間に立てられるとおっしゃいました。神との直接の契約でした。
2. 神は、アブラムが多くの国民の父となると約束なさいました。
3. 神は、アブラムの名をアブラハムと変えられました。それは、「多くの者の父」という意味です。
4. 神は、この契約がアブラハムとその子孫に受け継がれる永遠の契約となると約束なさいました。
5. 神は、カナン之地をアブラハムの子孫の住む土地として与えると約束されました。

ここで神がアブラハムにおっしゃったことは、ほとんどがすでに語られたことの繰り返しでした。しかし、15章でアブラハムにおっしゃったことに加えられた言葉がひとつあります。それは、「永遠の」という単語です。

神は、アブラハムとその子孫に「永遠の契約」を結ぶと確約なさいました。

これは重要なポイントです。というのも、神がアブラハムとその子孫に立てられた契約は現在も有効であることを意味するからです。

神は、イサクとヤコブをとおしてもこの契約を確認なさいました。（創世記26-27章）

つまり、神の選びの民であるユダヤ人は、現在もイスラエルに住むことを神から命じられているということです。

過去70年間のイスラエルの歴史を見ると、イスラエルがそこに存在することを周辺諸国が望まないのが、多くの問題が起きました。しかし、イスラエル軍は規模で劣っているにもかかわらず、1948年以来、すべての紛争で勝利を収めています。また、世界中に離散しているユダヤ人が大勢イスラエルに帰還しています。

ユダヤ人は、神から驚くほどの祝福を受けている国民です。イスラエルの祝福についてはあまり報道されませんが、医学や農業、教育などの最先端技術を彼らは握っています。

イスラエルは科学技術に従事する人の割合でも世界一です。イスラエルでは、科学者や技術者が労働力人口一万人当たり145人であるのに対し、米国では85人、日本では70人、ドイツでは60人となります。それらの労働力人口のうち、25%が技術専門職に就いています。イスラエルは、この分野でもトップです。

イスラエルは、科学誌の発行部数の人口比が一万人当たり109部と、他国と大差をつけて一位です。また、特許出願数の人口比も一位です。

航空関係者によると、イスラエルは世界一厳しい航空警備体制をしいています。今では米国が、航空関連の危機管理におけるアドバイスをイスラエルに求めると言われます。

チャールズ・クラウトハマーは1998年5月11日のウィークリースタンダード誌で次のように記しました。

「イスラエルはユダヤ民族継承の権化である。三千年前と同じ土地に住み、同じ国名を持ち、同じ言語を話し、同じ神を拝む、地上で唯一の国家である。地面を掘れば、ダビデの時代の器や、二千年前の巻物が発見される。そこに記された文字は、近所のコンビニでアイスクリームを宣伝する広告に記された現代の文字とほぼ同じなのである。」

イスラエルは、他に類を見ない国家です。それは、神がアブラハムとその子孫と永遠の契約を結ばれたからです。神は、彼らを祝福すると約束なさいました。そして、今も確かに祝福しておられます。

2. 契約に関する神の条件 (10-14節)

これらの個所で、神はアブラハムに契約の条件をお伝えになりました。

10節で、神はアブラハムに、すべての男子が割礼を受けるよう命じられました。子どもに関しては、生まれて八日目に割礼されなければなりません。また、ユダヤ人家庭で働く奴隷も割礼を受けなければなりませんでした。

14節は、割礼を受けない男子は神の契約に加われないと語ります。その人は、神の与えられた条件を破ったことになり、神もその人物に対する契約を守る必要はないということです。

そのような方法で神が選ばれた民を特徴づけられるのは不思議に思えますが、それが神の選ばれた方法ですので、それを尊重して受け入れる必要があります。

昔から神学者の間では、神が契約の民のしるしとして割礼を選ばれた理由についてあらゆる見解があります。私自身は其中で、もっともふさわしいと思われるものを支持しています。

その著者の名前はここで明かしてませんが、ある神学者はこう言っています。

「割礼は、神が民とどれほど親しい交わりを望んでおられるかを示していると思います。神は、私たちと親しくつながることを望まれるので、体の一部でもっともプライベートな部分に目に見える契約のしるしをつけることを選ばれたのでしょう。さらに、包皮を切り捨てることは、もっとも隠れた部分をあらわにする象徴です。男性が完全に裸であったとしても、包皮によってもっともプライベートな部分は隠れたままです。もっとも親しい交わりの中でのみ、また、その親しい交わりを分かち合う相手にのみ、そのすべてが露出されます。神はそれほどの親密さを私たちとの関係に求められるのです。

これは、みことばにも表現された概念です。天国におけるキリストと教会との関係を、地上であらわすのが結婚です。

マタイ25 : 1-13

25:1 そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。 25:2 そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。 25:3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。 25:4 賢い娘たちは、自分のともしびと一しょに、入れ物に油を入れて持っていた。 25:5 花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。 25:6 ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。 25:7 娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。 25:8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』 25:9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはどうて

い足りません。それよりも店に行って、自分のお買いなさい。』 25:10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼といっしょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。 25:11 そのあとで、ほかの娘たちも来て。『ご主人さま、ご主人さま。あけてください』と言った。 25:12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と言った。 25:13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。

ですから、ある意味で割礼は、花婿と花嫁がふたりの間では何もかもをさらけ出すことを象徴していると思います。

これは私の個人的な意見ですが、神がなぜこのしるしを選ばれたのかという質問に対して、他の答えと同じように有効な答えだと思います。」

これについては、最後の適用の部分でもう少しお話ししましょう。

3. 神は、アブラムの妻の名を変え、イサクの誕生の時期を決められた。(15-22節)

この個所で、とてもうれしいことが起こりました。15-16節で、神はサライの名をサラと変えられます。なぜでしょう。その理由は誰にもわかりません。どちらの名も、「王女」という意味があります。

しかし、神は常にご自身のなさることに目的をお持ちですから、その理由は後からわかるかもしれません。

ここでわかっているのは、黙示録2：17から、私たちクリスチャンは天国で神から新しい名をいただくということです。聖書学者たちは、神が私たちに与えてくださる新しい名は、神との親しさを表すものであると考えています。夫婦がお互いにつけるニックネームのようなもので、とても個人的な呼び名です。

アブラハムとサラにとってうれしい出来事は、子どもが生まれる時期と子どもの名前を神が教えてくださったことです。

アブラハムとサラは、25年近くも待っていましたが、それまではいつ子どもが与えられるか神は知らせておられませんでした。そしてやっと、翌年に子が生まれるとアブラハムに知らせてくださいました(21節)。

アブラハムは最初、17節で、サラから子が生まれるという神の約束を笑いました。アブラハムはもう100歳、サラも90歳だったからです。

18節で、アブラハムは、サラから将来産まれる息子よりも、イシュマエルの繁栄に関心を寄せています。

しかし、神は翌年にサラの胎からアブラハムの子が生まれると強調されました。

不可能に思えたことが、「万能の神」エルシャダイの力をとおして可能にされようとしていました。

現代の私たちも、エルシャダイの神を信じる必要があります。神のみこころなら不可能なことはないと思えばなりません。

神は、聖書で約束なさったことに忠実であります。

4. アブラハムは、割礼に関する神の命令にすぐさま従った。(23-27節)

アブラハムは、神の命じられた内容についてあれこれ考えませんでした。アブラハムの家のすべての男子が割礼を受けるようにと神が命じられたその当日に、彼は神の命令に従いました。

彼自身、99歳で割礼を受けました。

アブラハムは、神が契約を守る力をお持ちであると確信しました。その契約の内容は、アブラハムの子孫を偉大な民としてくださり、住むべき土地を与えてくださり、そして、いつの日かアブラハムの子孫をとおして全世界が祝福されるという約束でした。

では、17章から私たちが実践できる教えは何でしょう。

適用

まず、契約のしるしの理由について考えたいと思います。これは、現代に生きる私たちにとってはどういう意味でしょう。契約のしるしは、非常に親密で個人的なものでした。神は、アブラハムの子孫という選ばれた民との関係が直接的で親密であることを示しておられます。親密と言っても、性的な意味ではありません。一対一の強い絆を指しています。

申命記7：6-8を読みましよう。

7:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。7:7 【主】があなたがたを恋い慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。7:8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、【主】は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。

この箇所は、神が主権をもって、アブラハムとその子孫を聖なる民とする選択をされたと言います。

彼らを選ばれたのは、神との交わりのためです。他のどの国の人々とも違って、神の特別な宝となるためです。

割礼というしるしは、神の尊い民を特徴づけるひとつの方法でした。こうすることによって、彼らは一目瞭然の存在となります。また、神との直接的で深い関係を示すためでもありました。

割礼は救いのしるしではありません。アブラハムは割礼を受ける前に神から義と認められました。

創世記15：6は、アブラムが主を信じたので、それが彼の義とされたと言います。ですから、割礼という契約のしるしは、救いのしるしではありませんでした。割礼を受けた人は、アブラハムの一族の一員であり、神が主権をもってその一族を選んでおられるというしるしでした。

では、新約聖書から考えてみましょう。ローマ2：25-29を読みましよう。

2:25 もし律法を守るなら、割礼には価値があります。しかし、もしあなたが律法にそむいているなら、あなたの割礼は、無割礼になったのです。2:26 もし割礼を受けていない人が律法の規定を守るなら、割礼を受けていなくても、割礼を受けている者とみなされないでしょうか。2:27 また、からだに割礼を受けていないで律法を守る者が、律法の文字と割礼がありながら律法にそむいているあなたを、さばくことにならないでしょうか。2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではありません。2:29 かつて人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。

このローマ人への手紙の個所から、体の割礼は神の民の一員であるという外見上のしるしに過ぎないことがわかります。

神が関心を寄せられるのは、心の割礼です。つまり、私たちが神ご自身と深く直接的な交わりを持つことです。

ここで、大阪インターナショナルチャーチにいる私たちが学ぶべきことは次のとおりです。

外見上はクリスチャンらしく振る舞っていても、心は神との深く親しい交わりとはかけ離れている場合があります。

神と深く交わることなく、教会の礼拝に出席し、祈り、聖書を読んでいる可能性はあります。クリスチャンらしく見えるけれども神としっかり交わっていない人は世界中にたくさんいます。

その人たちの中には、本当は神と深く交わりたいと思っている人もいれば、自分の得のために神を利用したい人もいます。困ったら祈り、助けが必要などときには神のもとにやってきますが、普段の日常生活では神と無関係に暮らしています。

今朝皆さんにお尋ねします。あなたは、神との深く親しい交わりを望んでいますか。それとも望んでいませんか。

それを望んでいるなら、私がお手伝いしましょう。けれども、望んでいないなら、私にできることは何もありません。

今朝ここに、神との深く親しい交わりを心から望んでいる人がいるだろうと仮定してお話します。さて、その人に私はどんな助言をしたらよいでしょう。

まず、罪深い心があることを神の御前で認めなければなりません。ローマ3：23は、すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることはできないと語ります。どんなに良い人でも、100%聖なる神には及びません。私たちの罪が、聖なる神と私たちを隔てています。

次に、神が私たちが深く愛してくださり、罪を赦していただいて聖書が教える創造主なる神と直接つながれる方法を用意してくださったことを信じる必要があります。私たちの罪は、神の目には深刻なものです。それで、神はひとり子イエス・キリストをこの世に遣わされました。イエスが来られた唯一の目的は、和解です。それは、人間を創造主と正しい関係に立ち戻らせることです。それが可能となるたったひとつの方法は、神ご自身が人のかたちでこの世に来て、私たちの罪の罰を負って死なれることでした。

コリント第二5：21

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。

さらに、罪深い物事に背を向け、聖書の教えに従うと心に決めなければなりません。聖書は悔い改めを呼びかけます。悔い改めとは、方向転換するという意味です。

神の助けを得て、これからの人生ずっとイエスについていきますと約束する必要があります。

クリスチャンになりたいと真摯に願うなら、神もまた、私たちに新しい心を与えたい、神についていきたいという願いを与えたいと望んでくださいます。

神は、神に背いたユダヤ人について預言者エレミヤをとおして語られました。

エレミヤ4：6-7

24:6 わたしは、良くするために彼らに目をかけて、彼らをこの国に帰らせ、彼らを建て直し、倒れないように植えて、もう引き抜かない。 24:7 また、わたしは彼らに、わたしが【主】であることを知る心を与える。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。彼らが心を尽くしてわたしに立ち返るからである。

あなたが創造主と直接つながる関係を真剣に考えるなら、神はあなたの心を変えようと真剣に考えてくださいます。

神に対して心を頑なにしてはいけません。神のもとに来て、救いを求めましょう。神の御国に入れてくださいと願いましょう。神はご覧になる神です。そして、あなたの心の中をご存知です。